

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・5 vol.404

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



矢巾キャンパスに咲く植樹された桜 (撮影：画像情報センター 撮影日：5月4日)

おもな内容

- 巻頭言／「魅力溢れるコンパクトシティを目指して」 歯学部長 三浦 廣行
「四期生を迎えた薬学部」 薬学部長 二井 將光
- 連 載／当院認定看護師の紹介(10) がん性疼痛看護認定看護師 菅野 綾子
- 報 告／本学が国際共同研究契約を締結
- 花巻温泉病院周辺の散策



魅力溢れる コンパクトシティを目指して

歯学部長 三浦 廣行

大 学報386号（2007年6月発行）に、以下の拙文を寄稿いたしました。（前略）岩手医科大学歯学部は、未曾有の危機に直面しております。しかし、古くから「最も暗い時は最も夜明けに近い時である。明けぬ夜はない。」と云われており、また「positive thinkingは思わぬincentive（やる気）を創る」とも云われております。（後略）

し かし、歯学部は国試合格率の低迷、入学者の激減と未だ夜の明けない状況にある。

社 会が急速に、そしてダイナミックに変化している昨今、我々は夜明けを待っているのではなく、夜明けを目指して、全力疾走しなければならない。我々自身が迅速に行動する必要がある。現状を打開するには、我々が大きく変わらなければならない。じっとしていても活路は誰も見出してはくれない。道を切り開いていくのは我々一人ひとりの行動力と忍耐強い、不断の努力である。

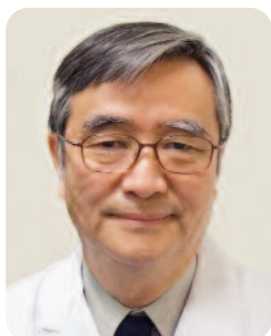
そ して、システムを変えるだけでは意味がない。我々の意識を変えなければならない。あきらめないこと。我々医療に従事する者があきらめたら、患者さんが困ると同様に、歯学部の存亡も我々の飽くなき不断の努力にかかっている。我々の可能性を信じて行動するしかない。

教 員は、常に学生さんに夢を語り、学生さんの輝かしい将来像を夢見させ、希望を大きく膨らませていく責務がある。学生さんは教員の背中を見て育つ。褒めて育てる、夢ある教育

が大切である。さらに学生さんには挫折感を味わわせず、かつ、達成感を味わわせることが重要である。そのためには、教員自身に活力と努力が要求される。しかし、活力は与えられるものではなく、自ら造り出すものである。また夢ある、魅力溢れる歯学部にしていくためには、まず教員自身が自ら夢を持ち、多くの知識を得、更なる技術を磨き、人間性を高めていくことが、最優先課題である。常に向上心を持ち、バイタリティのある魅力ある教員であれば、学生さんに与える影響は計り知れないものがある。学習の主体は学生さんであり、その学生さんをサポートするのが教員であるから、一人ひとりの学生さんがよく見える、そして一人ひとりの教員もよく見える組織のコンパクト化が、一人ひとりの学生さんに木目細やかな対応ができることにつながるものと考えている。

本 学の教職員や学生さんには底知れぬ潜在力がある。この潜在力を活性化するあらゆる手段を講じて行く覚悟である。





四期生を迎えた薬学部

薬学部長 二井 將 光

高 い理想に燃え、医学部と歯学部の全面的な協力を得て作られた薬学部は日本広しと言え、岩手医大だけです。この一文で始まる三年前の記事を記憶しておられるでしょうか。国公私立大学の薬学教育のベテラン、大学や厚労省の研究者が矢巾キャンパスに集まり、2007年の4月に薬学部が開設されました。

本 年の4月から2期目の学部長を引き受けさせていただき、感慨深いものがあります。三年前にも書きましたが、日本に於ける薬学という学問の源は明治時代にドイツから有機化学を導入した薬学の初代教授、長井長義博士にあります。時代とともに、創薬と医療に向かう関連科学、生化学、生理学、さらには薬理学等の研究と教育が取り入れられましたが、有機化学が基盤にあるのが薬学の大きな特色となっております。したがって、研究と教育は他の生命科学に関連する学部と比較して、より分子レベルにあると言えます。薬学に携わる者が、数百種類に及ぶ薬の構造と作用を生物学的に理解しなければならないことから、有機化学が基礎に必要であることをお判りいただけるでしょう。

教 育面では、将来いろいろな現場で問題を見つけ、解決する能力を持った人材を養成しなければいけません。薬学の卒業生は、基礎的な生物学から医療の基礎と薬剤師という応用面を担当しています。自分は科学者であるという認識を持って、三年後には多くの卒業生が薬剤師あるいは企業の創薬研究者、大学や研究機関の研究

者等として日本の医療、さらには科学を支えてほしいと願っています。

し かし、実際に教育を進めてみると、いろいろな難しい問題が出てきました。学生にはゆとり教育の弊害が出ていますので、大学とは考え難い基本からの教育が必要であることは言うまでもありません。対策として、補習と演習、さらにオフィスアワーの時間を十分に設け、教員には限界に近いまでの努力を御願ひしています。学生の対応に失望しそうになる教員もおり、改めて人を育てることの難しさを感じています。

同 時に、教員の多くは教育の傍ら日夜研究を続けており、多数の矢巾発の論文を発表しています。その中には、J. Biol. Chem. や Nature Cell Biology 等のインパクト・ファクターの高いジャーナルに掲載された論文もあります。さらにレベルの高い研究を推進する為に、講座間や部局横断的な共同研究を強力に進めていきたいと思っています。



はじめに

私は、がん性疼痛看護認定看護師として、本年度から活動しています。院内では、がん関連の認定看護師と共に、院内研修の講師や事例検討会の運営を行ったり、緩和ケアチームのミーティングなどにも参加させていただいています。病棟では、痛みを持つ患者さんに対し、患者さんが望む日常生活が送れるよう、薬物療法や非薬物療法を用い疼痛緩和に努めています。疼痛は、患者さんの日常生活に大きな影響を与え時に、人格さえも崩壊します。そのため、痛みのケアは、その人らしく生活するために、もっとも必要なケアであると考えます。



病棟での活動



病棟の看護師からは、痛みのある患者さんを目の当たりにし、どうすることも出来ず、「何もしてあげられない」と無力感を抱いたケースの相談を受けることがあります。しかし、実際には、患者さんがどのように過ごしてきたか、その気持ちに近づこうと、患者さんの語りを傾聴する看護師の姿は、日常的に目にします。看護師のこのような姿勢は、痛みを持ち、孤独感を抱いている患者さんにとって、薬物療法以上の疼痛緩和を発揮することがあります。つまり、看護師は、日々の観察の中から、患者さんの痛みを感じ取ることが出来ています。

しかし、その患者さんの痛みや孤独感を医師に伝えることに難しさを感じるケースが多いように思います。病棟看護師からの疼痛緩和に関する相談内容の大半は、このような医師とのコミュニケーションに関わることです。私自身も認定看護師として活動を始めてから、医師へ意見を述べることに大変さを感じたり、上手くいかない体験も多くあります。しかし、大切なのは、患者さんの最も身近な存在である看護師が、感じ取った患者さんの痛みを医師へ伝え、一緒に悩むことです。

そのためには、まず、相手がどんな思いや考え、価値観を持っているのかを聴き、それによってアプローチの方法を考えた上で、主治医の意向を尊重し見守る時期なのか、積極的に交渉する時期なのかを慎重に見極めることが必要になると考えます。

がん性疼痛看護認定看護師として
目標にしていること

私は、私自身が患者さんの問題を解決するのではなく、スタッフが将来同じような事例に遭遇した時、スタッフ自身の力で問題解決ができるように援助することを活動の目標にしています。私自身、迷いや不安が生じることが多々あります。そのため、協働する姿勢を大切にし、スタッフに支えられながら、患者さんの平穏な日々の実現のために努めています。



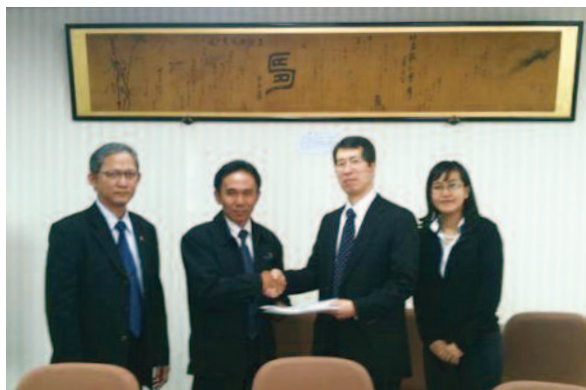
本学が国際共同研究契約締結

— 新規細胞を用いたインフルエンザワクチンの迅速生産方法の開発にむけて —

リエゾンセンター長 人見次郎 細菌学講座教授 佐藤成大

今般、本学はインドネシアの国営ワクチンメーカーと共同研究契約を締結しました。共同研究では本学医学部細菌学講座の佐藤成大教授が独自に開発した新規細胞を用いて、インフルエンザワクチンの迅速な生産方法の実用化に向け量産技術の開発に取り組めます。

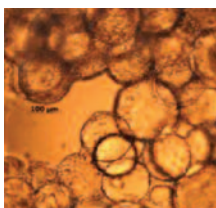
通常新規ワクチン開発には数億円という多額の研究開発費を要しますが、本学ではリエゾンセンターを窓口として約半年間交渉を重ねた結果、今後の研究開発費を全額ワクチンメーカーが負担し、開発に取り組むことで合意することができました。



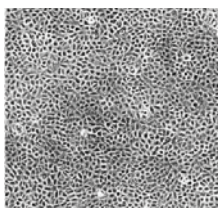
ワクチンメーカーとの契約締結の様子
(写真右から、細菌学講座イヴォサーバンダー助教、佐藤成大教授、ワクチンメーカー社員2名)

新規細胞の特徴

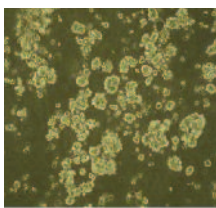
異なる
培養様式に
対応できる
新規細胞



(A)マイクロキャリア培養法



(B)セルファクトリー培養法



(C)浮遊培養法

本学の研究チームはこれまでJST（(独)科学技術振興機構）の支援を受け、イヌの腎臓細胞に由来する新しいインフルエンザワクチン産生用細胞株によるウイルス増殖の開発に取り組んできました。新規細胞の特徴は以下の通りです。

- これまでの細胞よりインフルエンザウイルスの増殖が亢進している。
- 各種ヒト型・トリ型インフルエンザウイルスに対して感受性が高い。（インフルエンザウイルスは株ごとに増殖性に差がある。）
- 細胞遺伝子のインフルエンザウイルス抑制因子の発現が低下している。
- インフルエンザウイルス感染による細胞死が遅延している。
- 造腫瘍性が低く、ワクチン産生に適している。
- マイクロキャリア培養法（写真A）、セルファクトリー培養法（写真B）、浮遊培養法（写真C）のいずれの方式でも培養可能。

今後の展望・課題

現在国内で生産されているワクチンは鶏の有精卵を使った「孵化鶏卵法」によって製造されていて、1人分のワクチンに2個の有精卵を要するために卵の準備から完成まで4～5ヶ月かかります。

「細胞培養法」では大型タンク等を使用することにより一度に大量生産が可能であり、製造期間も1～1.5ヶ月ですむためにパンデミックへ対応することができます。生産コストも卵の値段に左右されずに生産できることからコストダウンが可能であり、現在のワクチンの値段では利用できない途上国での利用も期待されます。世界的に見てワクチン生産は「孵化鶏卵法」から「細胞培養法」へシフトしており、安価で安全なワクチン生産の開発が待ち望まれています。

今後の研究課題としては、研究レベルから量産レベルへの大規模化試験、細胞の安全性への公的証明の取り付け（一部は既に実施）、ワクチン精製技術の選定、そして臨床試験が挙げられます。本学では現在、インドネシアより共同研究員を2名受け入れ量産化に向け研究を加速しているところです。

平成22年度 事業計画

私立大学を取り巻く現況は、少子化の進行に伴う18歳人口の減少、大学設置の規制緩和等により新設の大学・学部等が増加し、大学間の競争が激化するなかで、経営環境が一層厳しさを増しています。

この様な厳しい経営環境下において、平成21年度に入学定員を割り込んだ歯学部募集人員が平成22年度は70名となるものの、医学部入学定員が110名から125名に増員することが決定したことは、本学の継続した発展への契機となるものであります。

平成22年度に実施する事業として、総合移転整備計画においては、医学部・歯学部・薬学部の連携を強固にした教育・研究環境の整備を推進します。また、施設のみならず教育体制の確立と学生支援体制の整備をさらに進め、3学部連携を強く打ち出し、受験生を確保し、地域医療を担う医師、歯科医師、薬剤師を輩出するための取り組みが肝要です。財源確保については、平成22年度に増額改定となる診療報酬の改定内容を検証し、増収を図る対策を講じなければなりません。また、歯学部については、全国的に志願者が減少しているため、積極的な学生募集活動と広報活動を展開し、入学定員の学生確保に努めなければなりません。

平成22年度事業計画は、以上の方針により、教職員一丸となって推進するものです。

(1) 総合移転整備計画関係

- ①医学部・歯学部基礎部門及び教育研究施設の移転（平成23年2月竣工予定）
- ②7テスラMRI研究施設建設（平成22年8月竣工予定）
- ③矢巾キャンパスC敷地の購入と造成
- ④矢巾キャンパス緑化事業の推進

(2) 教育・研究関係

- ①医学部学生定員増に伴う教育体制の整備及び地域医療に貢献する医師の養成
- ②医師国家試験の合格率の向上
- ③歯科医師国家試験の合格率の向上
- ④薬学共用試験及び薬剤師国家試験対策
- ⑤入学生の確保
- ⑥キャリア支援システムの確立
- ⑦歯科衛生専門学校、歯科技工専門学校の統合に向けた取り組み
- ⑧歯科技工専門学校、歯科衛生専門学校の入学生の確保
- ⑨歯科技工専門学校、歯科衛生専門学校の国家試験合格率の高位維持

(3) 補助事業及び委託事業関係

- ①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金、私立大学等経常費補助金）
- ②私立大学学術研究高度化推進事業（文部科学省私

立大学等経常費補助金）

- ③がんプロフェッショナル養成プラン（文部科学省大学改革推進等補助金）
- ④戦略的大学連携支援事業（文部科学省大学改革推進等補助金）
- ⑤大学病院連携型高度医療人養成推進事業（文部科学省大学改革推進等補助金）
- ⑥大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用（文部科学省大学改革推進等補助金）
- ⑦オーダーメイド医療実現化プロジェクト（文部科学省科学技術試験研究委託事業）
- ⑧治験拠点病院活性化事業費補助（岩手県）
- ⑨がん診療連携拠点病院機能強化事業費補助（岩手県）
- ⑩エイズ診療に係る医療・介護従事者等研修事業委託料（岩手県）
- ⑪岩手県肝疾患相談センター運営事業委託料（岩手県）

(4) 医療関係

- ①放射線治療施設建設（平成22年10月竣工予定）
- ②次期病院総合情報システムの導入
- ③歯科医療センターの診療科再編
- ④岩手県地域医療再生計画による体制の整備
- ⑤医療経費の適正化について

(5) 施設設備関係

- ①東棟棟塔屋外壁修繕
- ②7号館南側外壁修繕
- ③6、7号館電気室電気機器制御用直流電源装置更新
- ④テレビ電波受信障害対策（歯学部・旧教養部）

※本紙掲載内容は、平成22年度事業計画書より抜粋したものです。詳しい内容に関しては、平成22年度事業計画書及び本学ホームページ「情報公開」を参照ください。

本学名誉教授 東儀 英夫 先生の逝去

東儀英夫殿におかれましては、平成22年4月3日午後7時50分に東京都のご自宅において逝去されました。享年72歳でした。

先生は、昭和39年3月に東京大学医学部を卒業後、東京大学医学部附属病院等での勤務を経て、昭和57年8月に本学医学部神経内科学講座の初代教授として任用されました。平成8年4月に医学部附属病院長、平成13年4月に医学部長に就任され、平成15年4月に名誉教授の称号が授与されました。

また、平成8年4月から平成15年3月まで理事として、平成8年4月から平成18年11月まで評議員として本法人の発展に多大なる貢献をされました。

神経内科学の分野においては、脳血管障害、認知症、神経筋疾患、パーキンソン病等の変性疾患など、神経疾患全般の研究・診療の発展にご尽力され、昭和51年にはベルツ賞を受賞されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。



理事會報告

■ 3月定例（3月29日開催）

1. 平成21年度補正予算について
 2. 平成22年度事業計画について
 3. 平成22年度予算について
 4. 役職者の選任について
- | | |
|-------------|-----------|
| 共通教育センター長 | 高橋 敬（新任） |
| リエゾンセンター長 | 人見 次郎（再任） |
| 総合情報センター長 | 澤井 高志（再任） |
| 同副センター長 | 佐藤 洋一（再任） |
| 同副センター長 | 谷田 達男（再任） |
| 同副センター長 | 木村 重信（再任） |
| 同副センター長 | 野中 孝昌（新任） |
| 同副センター長 | 三田 光男（新任） |
| 学生副部長 | 佐塚 泰之（新任） |
| 同副部長 | 作山 正美（再任） |
| キャリア支援センター長 | 西郡 秀夫（新任） |

（任期 平成22年4月1日から平成25年3月31日まで）

5. 教育職員の人事について

<昇任>

- 病理学講座（分子診断病理学分野）
教授 菅井 有（前嘱託教授）
- 外科学講座
准教授 佐々木 章（前嘱託准教授）
- 内科学講座（血液・腫瘍内科分野）
准教授 伊藤 薫樹（前講師）
- 歯科補綴学講座（冠橋義歯補綴学分野）
准教授 武部 純（前嘱託講師）
- 内科学講座（糖尿病・代謝内科分野）
嘱託准教授 高橋 和真（前講師）

<任用>

- 口腔機能保存学講座（歯内療法学分野）
准教授 成石 浩司（前岡山大学病院歯周科講師）
（平成22年4月1日付）

6. 職員就業規則及び事務組織機構図の一部改正について

<改正点>

- ・職員就業規則の「機密の事務を取扱う者」に内部監

査室を追加

- ・事務局組織機構図にキャリア支援センター事務室、健康管理センター事務室、内部監査室（事務員）を追加

（施行年月日 平成22年4月1日）

7. 寄付講座及び寄附研究部門取扱規程の制定並びに組織規程の一部改正について

<目的>

本学における奨学を目的とする企業・団体・個人からの寄付金及び寄附研究を担当する教員を受け入れて、教育研究を推進・充実するための体制整備

<制定規程>

- ・寄附講座及び寄附研究部門取扱規程
- ・特任教員規程

<組織規程の改正点>

- ・期間の定めのある教員に特任教員を追加

（施行年月日 平成22年4月1日）

8. リニアック放射線治療機器等の機種変更について

放射線治療施設への導入装置については、新機種導入のため整備計画の見直しを行い、同機器の整備にあたり岩手県に対して平成21年度の「がん診療連携拠点病院放射線治療設備整備補助事業」として補助申請を行うこととした。

9. 役員報酬・慰労金支給規程の一部改正について

（施行年月日 平成22年4月1日）

10. 評議員の退任及び選任について

<新任>

- 高橋 敬（職員区分）
- 高橋 俊雄（職員区分）

<区分変更>

- 荒木 吉馬（職員区分から功労者区分へ）

（任期 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

<退任>

- 佐藤 洋一（職員区分）
- 佐藤 久伸（職員区分）

（平成22年3月31日付）

平成22年度入学式を挙

岩手医科大学入学式が、4月9日(金)午前10時から岩手県民会館大ホールで行われました。今年度の入学生は、大学院医学研究科博士課程26名・修士課程4名、歯学研究科博士課程15名、医学部120名・3年次編入学7名、歯学部42名・2年次編入学9名、薬学部163名でした。

式では、開式の辞、国歌斉唱に続き、入学生一人ひとりの名前が読み上げられ、小川学長が入学の許可を宣言しました。続いて、医学部の土方真吾さん(写真：中央)と歯学部の白石基さん(写真：左)、



岩手医科大学入学式

薬学部の金城尚平さん(写真：右)が代表で「建学の精神と学則にのっとり、学生の本分を全うすることを誓う」と宣誓しました。

また、岩手医科大学歯科技工専門学校と岩手医科大学歯科衛生専門学校の合同入学式が4月3日(土)午前10時から本学講堂において行われました。今年度の入学生は、技工専門学校24名、衛生専門学校44名で、両校の教職員・父母・在学生が見守るなか、技工専門学校の黒澤祥大さん(写真：右)と衛生専門学校の千葉恵さん(写真：左)が入学生宣誓を行いました。



歯科技工専門学校・歯科衛生専門学校合同入学式

新入職員辞令交付式が行われる

本法人の平成22年度新採用者に対する辞令交付式が4月1日(木)本学講堂において行われ、採用者181名が辞令書の交付を受けました。

式典では、新入職員全員の呼名の後、新入職員を代表して、東5階看護師の石頭歩さんが辞令を受けました。続いて、大堀理事長から式辞があり、医学部皮膚科学講座助教の村岡聡介さん(右写真)が新入職員を代表して誓詞しました。

辞令交付後は職種ごとに分かれてのオリエンテーションが行われ、新入職員の皆さんは熱心に耳を傾けていました。



◆新入職員内訳は次のとおりです

助教29名、ポスト・ドクター1名、専門研修医10名、臨床研修医8名、臨床研修歯科医38名、事務員12名、薬剤師4名、臨床検査技師5名、診療放射線技師5名、臨床心理士1名、視能訓練士3名、言語聴覚士1名、臨床工学技士1名、歯科衛生士1名、技術員補1名、技能員1名、歯科衛生専門学校教員1名、看護師59名

ノーベル化学賞受賞者 下村 脩 博士を迎えての ウエットラボを開催

2008年にノーベル化学賞を受賞した下村脩先生(写真：中央)を迎えてのウエットラボ(講義・実習)が、県内高校生を対象に3月28日(日)矢巾キャンパスで開催されました。

このウエットラボは県内高校生の理科・科学に対する高等教育の啓発を目的に、下村博士が日本解剖学会総会に出席するために来県する機会を利用し、開催されたものです。

当日は、県内15の高校から計39名が参加し、開講式では下村博士から「わからないことがあれば、まずは自分で調べて、興味関心を広げてほしい」と挨拶がありました。その後、本学教員や他大学研究者らによる全体講義、5つのグループに分けた実習が行

われ、参加した高校生は最先端の生命科学の世界に目を輝かせていました。



新任教授の紹介

掲載項目は先生に回答いただいたものです。なお、②のタイトルが英文の場合は和訳して掲載しています。

所属名 医学部病理学講座
分子診断病理学分野

氏名 菅井 有
(すがい たもつ)

生年月日 昭和32年10月19日
千葉県生まれ



- ①研究テーマ
・病理診断学、消化器病理学、腫瘍病理学
- ②主な著書論文
・胃分化型粘膜内癌と粘膜下層浸潤癌における分子解析 (Int J Cancer, in press.)
・DNA ploidy に基づいた大腸腺腫から早期大腸癌へのプログレッションにおける遺伝子異常解析 (J Pathol 2003; 200: 168-176.)
・DNA multiploid 大腸癌における ATM 遺伝子領域の allelic imbalance 解析 (Oncogene 2001; 20: 6095-6101.)
- ③趣味・特技
・読書、ドライブ

④教職員への自己PR

病理診断は臨床診断や治療を根底から支える領域です。あまり派手な領域ではありませんが、現代の医療ではなくてはならないものです。病理診断を通じて本学の発展にわずかでも寄与できればと願っています。これからもよろしく御指導お願いします。

⑤経歴

昭和59年 岩手医科大学医学部卒業
昭和59年 岩手医科大学医学部第1内科講座副手
昭和61年 岩手医科大学医学部中央臨床検査部臨床病理部門(以下、臨床病理部門)助手
平成4年 三菱油化 BCL 遺伝子解析事業部出向(遺伝子解析技術習得のため)
平成5年 岩手医科大学臨床検査医学講座講師
平成9年 千葉県銚子市で内科医院開業
平成10年 岩手医科大学臨床検査医学講座講師
平成12年 岩手医科大学臨床病理部門助教
平成20年 同病理学講座分子診断病理学分野准教授
平成20年 岩手医科大学附属病院病理診断科部長
平成20年 岩手医科大学医学部病理学講座分子診断病理学分野嘱託教授
平成22年4月 現職

所属名 薬学部分子細胞薬理学講座

氏名 弘瀬 雅教
(ひろせ まさみち)

生年月日 昭和33年1月18日
高知県生まれ



- ①研究テーマ
・心臓の電気生理・薬理学、特に心房細動発生メカニズムとその薬物治療の研究
- ②主な著書論文
・ジアシルグリセロールキナーゼ-ゼータの活性化は、遺伝子改変心不全モデルマウスの心房筋の電氣的・構造的リモデリングを改善する。(Heart Rhythm 6: 78-84, 2009)
・交感神経と副交感神経の活性化の揺らぎ (autonomic tone fluctuation) で発生してくる心房細動のメカニズムの解明。(Basic Res Cardiol 102: 52-62, 2007)
・心房細動を自然発生させる生理活性物質 PACAP (pituitary adenylate cyclase activating polypeptide) の心房筋の電気生理学的パラメータに対する作用。(Am J Physiol 281: H1667-H1674, 2001)

③趣味・特技

・大相撲観戦、ゴルフ、音楽

④教職員への自己PR

この度、縁あって岩手医科大学にお世話になることになりました。盛岡は前任地の信州松本と気候も似ており、大変気に入っております。これまで、心房細動を中心に心臓不整脈について光学マッピング法を使用して研究を進めて参りました。これからも多くの先生方との共同研究を通して、臨床の現場にフィードバックできるような基礎研究を進めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

⑤経歴

平成5年 信州大学医学部医学科卒業
順天堂大学医学部附属順天堂医院外科研修医
信州大学医学部薬理学講座助手
平成7年 米国ケースウエスタンリザーブ大学留学
平成10年 信州大学医学部薬理学講座嘱託講師
平成13年 米国ケースウエスタンリザーブ大学メトロヘルス病院留学
平成14年 信州大学医学部薬理学講座講師
平成19年 信州大学医学部分子薬理学講座准教授
平成22年4月 現職

自然を奏でる ～二胡～

薬学部神経科学講座 助教 田邊 千晶

私は、音楽や芸術とふれあうことを気分転換にしています。絵画を見に行ったり、コンサートを聴きに行ったりする中で、心を動かされる作品や未知の世界と出会うことが楽しいからでしょうか。この間は、お世話になったピアノの先生のコンサートに行ったときのこと、オーケストラの演奏でしか聴いたことがなかった「ボレロ」のギター独奏には驚かされました。思い

がけないところすごいのと出会えた喜びというのは何か特別なもののように感じます。

最近の一番の趣味になっている二胡との出会いは、大学での太極拳の授業でBGMに流れていた賈鵬芳氏のCDがきっかけで、偶然通りかかった楽器屋さんで二胡を手にしたことが始まりでした。二胡は、時おり人が歌っているかの



二胡

ような哀愁漂う音色が印象的で、そこに魅力を感じています。二胡は弦が2本しかなく、弓がその間に挟まっており、ヘビ皮が使われているのが特徴的です。楽譜は五線譜ではなく数字譜であり、調が変われば、「ド」＝「1」の位置も指使いも変わるというのには、いまだに難しさを感じます。また、二胡独特の奏法に「滑り」というのがあるのですが、それをうまく使うと、馬の鳴き声、鳥のさえずりなどを表現できるというのだから驚きです。桜の時期になると、お花見をしながら二胡を弾いたりしていたのですが、初めて触れる友達がコケッコ〜と二胡でひと鳴きさせたときなんかは、意外な才能を垣間見た瞬間でした。

二胡との関わりも6年目になり、現在は矢巾町に住んでいらっしゃる陳先生に指導をうけ、鳥のさえずり「空山鳥語」を目標に、これからも続けていきたいと思っています。



東京で4年間指導を受けた王先生を囲んで（左から筆者、王先生）

人 事

お知らせ

本法人では、公益通報者保護法に基づき、公益通報及び相談等に対応する窓口として、学内に「公益通報受付・相談窓口」を平成22年5月1日より設置しました。公益通報は、学内で法令・学内規程違反等の不適切な行為が生じ、或いは生じようとしている旨を通報して、不適切行為を改めまたは未然に防ぐことを目的としています。通報・相談方法等の詳細につきましては、本学ホームページに掲載していますのでご参照ください。

- **通報相談窓口** 内部監査室内 公益通報受付・相談窓口（創立60周年記念館9階）
- **通報の方法** 電話・電子メール・FAX・書面及び窓口における面談により通報することができます。
電話：内線 7029、7030 FAX：019-624-5758 E-mail：kansa@j.iwate-med.ac.jp

編集後記

4月号から大学報が毎月フルカラーで、皆様に届けられるようになりました。委員同士のチームワークの大切さを感じているのと同時に、毎月の表紙を考える楽しみも増しました。ぜひ皆様からの貴重なご意見・感想・記事をどんどん寄せてもらい、より充実した大学報になるよう励んでいきたいと思っております。

（編集委員 中島 久雄）

岩手医科大学報 第404号

発行年月日 平成22年5月27日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111（内線7022）

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

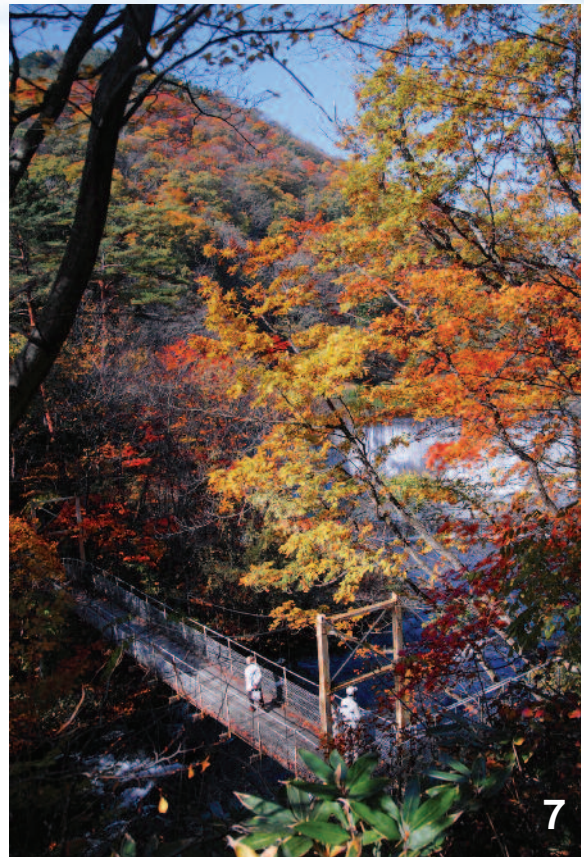
TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

花巻温泉病院周辺の散策



- 1 附属花巻病院と緒ヶ瀬滝
2 釜淵の滝 3 遊歩道
4 熊避けの鈴 5 巖谷小波の句碑
6 緒ヶ瀬滝 7 紅葉橋



企画課からの依頼で附属花巻病院を撮影してきた時のこと。待ち時間があり散策でもと勧められ、病院入口と反対側にある遊歩道を進みました。木漏れ日やせせらぎ、鳥のさえずりが聞こえ大滝からの爽やかなシャワー効果を体験できます。また紅葉シーズンには綺麗に色づいた木々と共に大滝を眺めることもできます。温泉、老舗蕎麦屋、伝統ある羽山神社（名水で有名）もあり、皆さん、週末散策やドライブがてらに寄ってみてはどうでしょうか。

（編集委員：中島久雄）

第73回大学報編集委員会

日 時：平成22年5月13日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：大堀委員長、山崎、影山、齋野、藤本、小山、佐藤、佐々木(志)、佐々木(光)、及川、千葉、佐々木(忠)、中島、岩動、武藤、野里

欠席委員：松政、千田、佐々木(さ)